

A high-speed photograph of water splashing, creating a dynamic and energetic scene with many water droplets in the air and ripples on the surface. The water is a clear, vibrant blue.

SEKISUI

積水化学グループ報告書

2011

(2010年4月1日～2011年3月31日)

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。また、このたびの東日本大震災により被災された方々に対し、心よりお見舞いを申しあげるとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

積水化学グループの2010年度の報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当年度の連結業績は、売上高は前年度比6.6%増の9,154億円、営業利益は前年度比37.2%増の493億円となり、増収増益となりました。

なお、2010年度の期末配当金につきましては、前年度の期末配当金より3円増額して1株につき8円とし、第89回定時株主総会に上程させていただき、ご承認をいただきました。当年度の1株あたり年間配当金は、2010年12月にお支払いした中間配当金5円と合わせまして、3円増配の13円となります。

積水化学グループは、「3S精神」(サービス、スピード、スペリオリティ)を社是としております。「サービス」とは事業活動を通じて社会に貢献する、「スピード」とは積水を千仞の谿に決するスピードをもって積極的に新分野を開拓する、「スペリオリティ」とは最善のシステムと最高の品質をもって顧客の信頼を確保する、という理念体系の根幹をなすものであります。

このような社是に基づいて、積水化学グループは「株主の皆様をはじめ、お客様やお取引先、従業員、地域社会のご期待にお応えし、成長を続ける企業」をめざしてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年6月

代表取締役社長

根岸修史

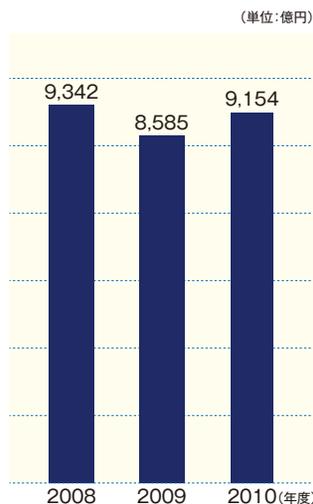


積水化学グループ2010年度決算のご報告

売上高

9,154億円
+6.6%

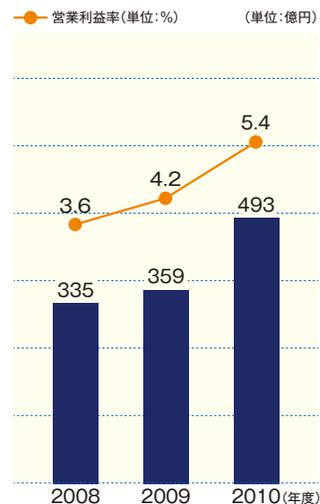
高成長分野と位置づける「フロンティア7」の売上高が大幅に増加したことや、アジアを中心とする新興国の売上高が増加したことなどにより、6.6%増加しました。



営業利益

493億円
+37.2%

各カンパニーのコスト削減や固定費の抑制など収益体質強化策が順調に進捗したことにより、37.2%の増益となり、中期経営計画における当初の計画を大きく上回りました。

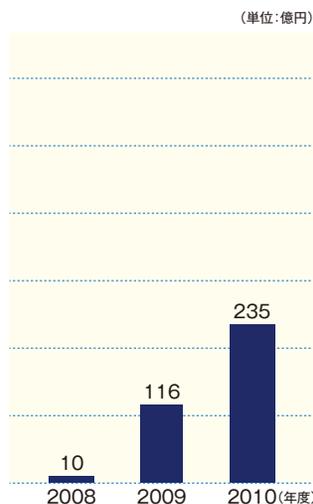


- 2 -

純利益

235億円
+102.8%

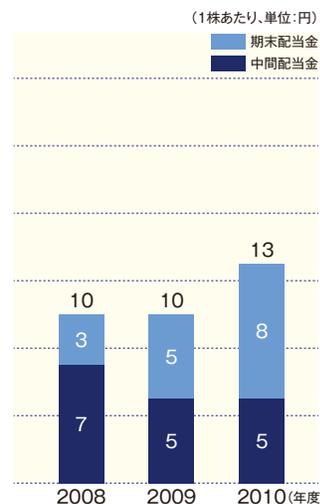
営業利益が増加したことなどにより、大幅な増益となり、通期予想を大きく上回りました。



期末配当金

8円

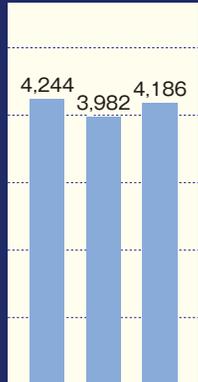
2010年度の業績が期初の予想を上回ったため、期末配当金を昨年4月に発表しました5円から3円増配し、8円とさせていただきます。



- 3 -

売上高の推移

(単位:億円)



2008 2009 2010 (年度)

営業利益の推移

(単位:億円)



2008 2009 2010 (年度)

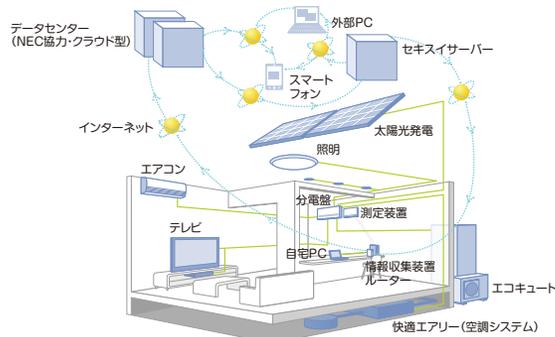
- 住宅関連の各種施策を追い風にして新築住宅事業、住環境事業が受注拡大に取り組み、売上高は前年度比204億円増の4,186億円となりました。
- 生販一体運営などによる収益体質の強化を推進したことにより、営業利益は49億円増の243億円となり、カンパニー制導入後の最高益を更新しました。
- 新築住宅事業は、大容量の太陽光発電システムや快適エアリーなどの先進メニューによる差別化が奏功し、新築住宅の受注棟数は、前年度に比べ5%増加しました。
- 成長分野である住環境事業には営業人員を投入し、太陽光発電システムなど重点商材の拡販を進めた結果、売上高は前年度に比べ11%増加しました。

太陽光発電システム搭載住宅が 累積10万棟を突破!



2011年4月、太陽光発電システム搭載住宅の累積販売棟数が、住宅業界で初めて10万棟を突破しました。積水化学では、1997年に初めて太陽光発電システム搭載住宅を販売して以来、関連商品の強化に努めており、今後もさらに推進してまいります。

セキスイハイムの次世代住宅新商品 「スマートハイム」を発売

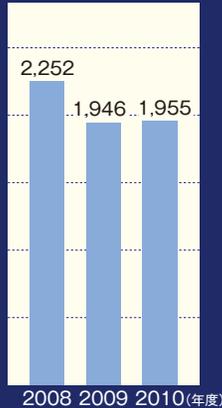


本年4月、ホームエネルギー管理システム(HEMS)「スマートハイム・ナビ」を業界で初めて標準搭載した住宅「スマートハイム」を発売しました。「スマートハイム・ナビ」は、インターネット経由でデータセンターに蓄積された住まいのエネルギー消費量などのデータをパソコンなどに送信し、データを「見える化」することで、お客様の省エネ意識向上につながるシステムです。

環境・ライフライン カンパニー

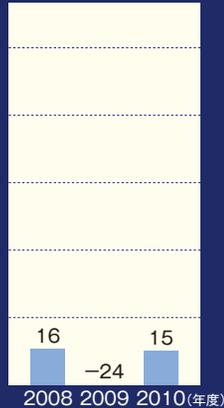
売上高の推移

(単位:億円)



営業利益の推移

(単位:億円)



- 売上高は、前年度比8億円増の1,955億円、営業利益は前年度の24億円の損失から39億円改善し、15億円となりました。
- 国内事業は、主力の塩化ビニル管や雨といが戸建需要の回復を受け堅調に推移し、成長分野であるストック、省エネ関連製品は好調に推移しました。
- 販売体制の見直しや不採算事業の整理などの経営効率化を推進し、収益体質の強化を図りました。
- 海外事業の売上高は、前年度に比べ14%増加しました。プラスチックシート事業が航空機分野の需要回復を受け好調に推移し、管路更生事業は売上・利益を伸ばしました。

- 6 -

「SPR工法」が欧州規格を取得



古くなった下水道管の内側に硬質塩化ビニル樹脂を巻き更生する「SPR工法」は、廃棄物を出さず環境負荷低減に貢献するため、国内をはじめ世界の大都市圏を中心に施工実績を伸ばしています。2010年には欧州規格を取得し、ドイツやハンガリー、チェコにおいて受注を伸ばしました。

高性能フェノールフォーム断熱材 「フェノバボード」が好調



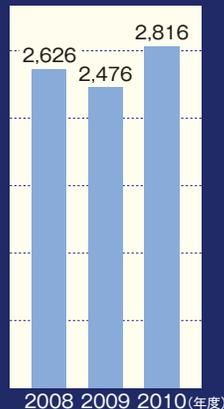
「フェノバボード」は、フェノール樹脂を発泡させたボード状の断熱材で、建築向け断熱材の中でトップクラスの性能を誇る製品です。地球温暖化問題への意識の高まりや住宅関連の各種施策による追い風を受け、2010年度は売上を大幅に伸ばしました。

- 7 -

高機能プラスチック カンパニー

売上高の推移

(単位:億円)



営業利益の推移

(単位:億円)



- 売上高は、前年度比339億円増の2,816億円、営業利益は前年度比51億円増の243億円となり、増収増益となりました。
- 円高や原材料価格高騰などの影響を受けたものの、IT、車輛分野を中心に戦略事業分野が順調に拡大し、海外事業も好調に推移しました。
- IT分野は、アジアを中心に新興国の成長需要を取り込み、液晶パネル関連製品の売上が大幅に伸び、売上高は前年度に比べ27%増加しました。
- 車輛分野は、新興国の需要増や欧米の需要回復により、合わせガラス用中間膜や発泡ポリオレフィンなどが順調に推移し、売上高は前年度に比べ17%増加しました。
- メディカル分野は、前年度に急拡大したインフルエンザ検査薬の出荷が減少したものの、その他の検査薬は順調に推移しました。

- 8 -

中間膜の原料生産能力を拡大



自動車向け合わせガラス用中間膜の世界シェアをさらに拡大するため、中間膜の原料樹脂生産工場であるオランダ工場(写真)の原料樹脂生産ラインを増設し、2011年1月より稼働を開始しました。

検査薬事業の海外展開を加速



積水メディカルの検査薬事業を強化するため、2010年11月に米国ジェンザイム社の検査薬事業を買収し、米国と英国に新会社を設立しました。これにより、これまで長年培った同社との事業提携をより強固なものとし、検査薬事業の海外展開をさらに推進していきます。

- 9 -

CSR (企業の社会的責任) の取り組み

積水化学グループでは、CSRを果たしていくための必要な要件を、「環境」「CS品質」「人材」の3つの“際立ち”と「コンプライアンス」「リスクマネジメント」「情報開示と対話」の3つの“誠実さ”に定め、事業を通して社会に貢献することを目指した取り組みを進めています。

●CSR中期計画(2009年~2013年度)

CSR経営を進化させ、さらに企業価値を創出するために、2009年度に「CSR中期計画」を策定しました。中期計画では、事業活動のさまざまな面で社会にとって価値を創出する社会への「貢献」と、社会から信頼を得る企業、人づくりとしての社会からの「信頼」を柱に据えており、グループ全体で取り組みを推進しています。

●環境中期計画「環境トップランナープラン・SHINKA!」の推進

「環境トップランナープラン・SHINKA!」では、「事業・製品を通じた地球環境への負荷低減」というこれまでの考え方を徹底し、生産を中心とする事業活動にともなう環境負荷低減と、使用時に負荷低減に効果のある環境貢献製品の拡大を通して、積極的に社会に貢献していきます。さらに、海外事業の拡大にあわせ、世界的な取り組みにしていきたいと考えています。

-10-

環境貢献製品比率が33%に拡大



積水化学グループでは、環境中期計画において、2013年度までに環境貢献製品が売上高に占める比率を40%以上に拡大する目標を掲げています。2010年度は、太陽光発電システム搭載住宅や遮音・遮熱中間膜(写真)の伸びにより環境貢献製品の売上高は3,025億円となり、売上高比率は前年度の21%から33%に上昇しました。

和歌山「積水化学の森」保全活動の開催



積水化学グループでは、2008年度より、和歌山県の熊野古道近くに2.7ヘクタールの森林用地を借り、植樹活動を定期的に行っています。郷土樹種を中心に10年間で4,000~5,000本の植樹を行い、多様な生き物が集う生物多様性の森を目指します。2010年度は2回開催し、グループ社員の家族を含め、約100名が参加しました。

-11-

連結損益計算書

(単位:百万円)

	2009年度 (2009年4月1日から 2010年3月31日まで)	2010年度 (2010年4月1日から 2011年3月31日まで)
売上高	858,514	915,492
売上原価	606,123	645,468
売上総利益	252,390	270,023
販売費及び一般管理費	216,434	220,688
営業利益	35,955	49,335
営業外収益	7,295	7,704
受取利息	790	646
受取配当金	2,021	1,533
持分法による投資利益	1,498	1,739
雑収入	2,986	3,785
営業外費用	12,175	8,748
支払利息	2,253	2,297
コマーシャル・ペーパー利息	27	—
売上割引	277	305
為替差損	998	2,504
雑支出	8,619	3,641
経常利益	31,076	48,292
特別利益	1,015	—
固定資産売却益	1,015	—
特別損失	8,747	8,491
事業構造改善費用	2,302	3,967
災害による損失	—	1,239
投資有価証券評価損	—	1,109
減損損失	3,456	984
固定資産除売却損	2,988	1,189
税金等調整前当期純利益	23,344	39,801
法人税・住民税及び事業税	11,510	14,025
法人税等調整額	△ 1,000	1,096
法人税合計	10,509	15,122
少数株主損益調整前当期純利益	—	24,678
少数株主利益	1,207	1,103
当期純利益	11,627	23,574

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2009年度 (2009年4月1日から 2010年3月31日まで)	2010年度 (2010年4月1日から 2011年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	74,983	64,197
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 55,496	△ 46,051
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,749	△ 5,197
現金及び現金同等物に係る換算差額	602	2,488
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	14,339	10,459
現金及び現金同等物の期首残高	40,488	54,855
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	28	629
現金及び現金同等物の期末残高	54,855	65,944

ポイント:連結損益計算書

高成長分野と位置づける「フロンティアA」やアジア新興国での成長需要を着実に獲得したことで経営効率化策の推進により、増収増益となりました。

ポイント:連結キャッシュ・フロー計算書

事業活動が好調に推移し大幅な増収増益となったことなどにより、営業活動によるキャッシュ・フローは増加し、フリー・キャッシュ・フローが152億円増加しました。

ポイント:連結株主資本等変動計算書

2010年6月に前年度の期末配当金、2010年12月に当年度の中間配当金合わせて52億円を株主の皆様にお支払いしました。

連結株主資本等変動計算書

(2010年4月1日から2011年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等					新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	土地 再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計			
2010年3月31日残高	100,002	109,307	154,353	△10,839	352,823	△ 1,037	74	199	△10,017	△10,781	503	9,160	351,706
連結会計年度中の変動額													
剰余金の配当			△ 5,256		△ 5,256								△ 5,256
当期純利益			23,574		23,574								23,574
連結子会社増加に伴う剰余金増加高			19		19								19
自己株式の取得				△ 2,178	△ 2,178								△ 2,178
自己株式の処分		△ 0		1	0								0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△ 7,164	△ 197	0	△11,101	△18,464	107	536	△17,819
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 0	18,336	△ 2,177	16,158	△ 7,164	△ 197	0	△11,101	△18,464	107	536	△ 1,660
2011年3月31日残高	100,002	109,307	172,689	△13,017	368,982	△ 8,202	△ 123	199	△21,119	△29,245	611	9,697	350,045

株式の状況 (2011年3月31日現在)

発行株式数および株主数

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
1,187,540,000株	539,507,285株	23,222名

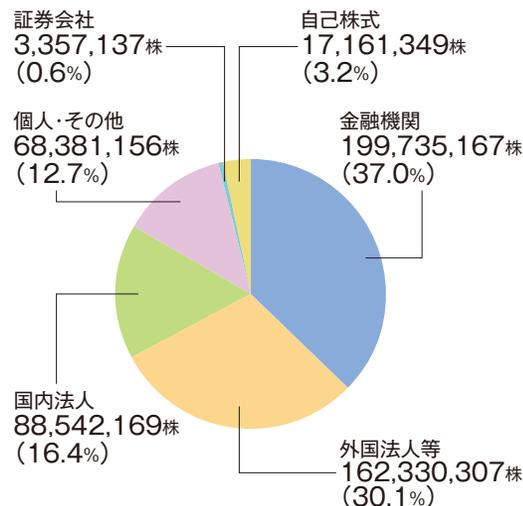
大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
旭化成株式会社	31,039	5.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	26,492	5.1
第一生命保険株式会社	26,181	5.0
積水ハウス株式会社	25,592	4.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	23,327	4.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	19,164	3.7
東京海上日動火災保険株式会社	15,927	3.0
積水化学グループ従業員持株会	10,612	2.0
ジェービー モルガン チェース バンク 385164	9,704	1.9
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	8,485	1.6

(注)1.当社は自己株式17,161千株を保有しております。

2.持株比率は発行済株式の総数から自己株式数を控除して計算しております。

株式の所有者別分布状況



-16-

株主メモ

株式に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号

電話(通話料無料) **0120-094-777**

- 三菱UFJ信託銀行では、特別口座に記載された株式をお持ちの株主様のお手続きのみを取り扱うこととなりますので、ご注意ください。
- その他の株主様の各種お手続きは、口座を開設されているお取引先の証券会社等にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

住所変更、単元未満株式の買取、配当金の受取方法のご指定等のお申し出について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

配当金計算書の送付について

配当金のお支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支配通知書」を兼ねております。確定申告される際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引先の証券会社等にご確認をお願いします。なお、配当金領収書にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

-17-

アンケートの集計結果

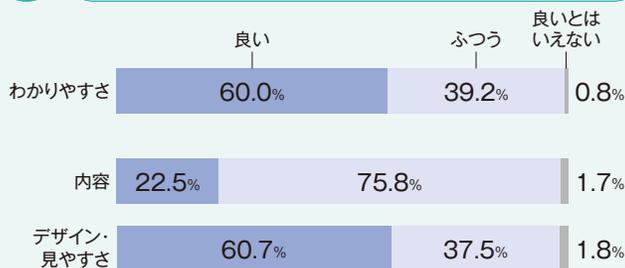
「積水化学グループ中間報告書2011」において株主の皆様へアンケートを実施させていただきましたところ、4,655名の株主様からご回答をいただきました。皆様のご協力に感謝を申し上げますとともに、お寄せいただいた貴重なご意見を今後の積水化学グループの取り組みに活かしてまいりたいと考えています。

※アンケートにご回答いただいた株主様には、「積水化学グループ2011カレンダー」をご送付させていただきました。

Q1 当社の株式を取得してどのくらいになりますか。



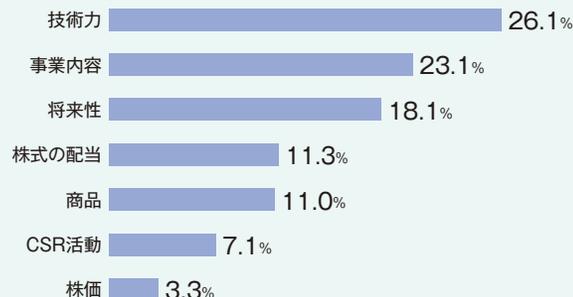
Q2 「積水化学グループ中間報告書2011」についてのご評価をお聞かせください。



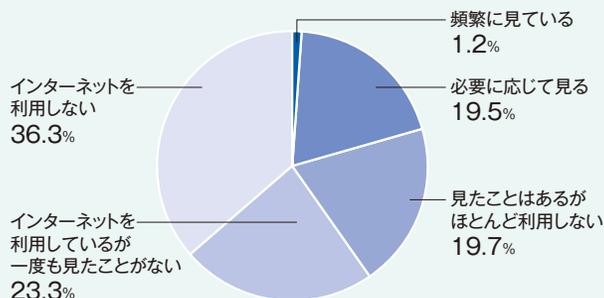
Q3 とくに関心を持たれた記事はどれですか。(複数回答可)



Q4 積水化学グループについて評価できるものはどれですか。(複数回答可)



Q5 インターネット上の積水化学のIR情報ページはご利用になっていますか。



会社概要 (2011年3月31日現在)

積水化学工業株式会社 (Sekisui Chemical Co., Ltd.)

創 立: 1947年(昭和22年)3月3日
資 本 金: 1,000億237万5,657円
本 社: 〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号
グループ従業員数: 19,770名
ホームページ: <http://www.sekisui.co.jp/>
事業年度: 4月1日から翌年3月31日まで

取締役および監査役 (2011年6月30日現在)

代表取締役社長	根岸 修史	社外取締役	辻 亨
取締役	松永 隆善	社外取締役	長島 徹
取締役	高下 貞二	常勤監査役	満生 英二
取締役	久保 肇	常勤監査役	篠 秀一
取締役	高見 浩三	社外監査役	國廣 正
取締役	上ノ山智史	社外監査役	長田 洋
取締役相談役	大久保尚武	社外監査役	大西 寛文

-20-

定時株主総会に関するご報告

平成23年6月29日に開催されました当社第89回定時株主総会におきまして、下記のとおり報告ならびに決議されましたので、ご報告申し上げます。

報告事項

- 第89期(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)事業報告、連結計算書類および計算書類報告の件
- 会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
本件は、上記の内容についてご報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
本件は、原案どおり承認可決され、配当は1株につき8円と決定いたしました。
- 第2号議案 取締役9名選任の件
本件は、原案どおり、根岸修史、松永隆善、高下貞二、久保肇、高見浩三、上ノ山智史、大久保尚武、辻 亨、長島 徹の各氏が選任され、就任いたしました。なお、辻 亨、長島 徹の両氏は、社外取締役であります。

投資家情報ウェブサイト

<http://www.sekisui.co.jp/ir/>
2010年度の連結財務諸表や決算説明会などの情報を提供しています。

開示情報のメール発信サービス

<http://www.sekisui.co.jp/ir/newsmail/>
積水化学の開示情報に関するお知らせを電子メールにて、直接、ご指定のメールアドレスにお送りするサービスです。

- 第3号議案 監査役1名選任の件
本件は、原案どおり、大西寛文氏が選任され、就任いたしました。なお、大西寛文氏は、社外監査役であります。
- 第4号議案 ストックオプションとして新株予約権を発行する件
本件は、会社法第236条、第238条および第239条の規定にもとづき、当社関係会社の代表取締役および一部取締役ならびに幹部従業員に対して、ストックオプション付与を目的として新株予約権を発行すること、ならびに、かかる新株予約権の募集事項の決定を当社取締役会に委任することについて、原案どおり承認可決されました。
- 第5号議案 当社株券等の大規模買付行為への対応策(買収防衛策)更新の件
本件は、原案どおり、承認可決されました。

-21-

積水化学工業株式会社

株主様のお問い合わせはこちら

法務部総務グループ

電話:06-6365-4119

商品に関するお問い合わせはお客様相談室へ

(東京)電話:03-5521-0505

(大阪)電話:06-6365-4133



この報告書は以下のような環境配慮をして印刷・製本しています。

- ①製版工程では、使用後に廃材となるフィルムを使用しない、ダイレクト刷版「CTP(Computer to Plate)」を用いています。
- ②印刷工程では、VOC(揮発性有機化合物)の発生が少なく、生分解性や脱墨性に優れた大豆インキを使用しています。